

会員だより

「福島県いわき地域の 復旧・復興状況について」



福島県土木部河川整備課 主任主査
猪狩 洋

(平成27年3月までいわき建設事務所に在籍)

1. はじめに

平成23年3月11日に発生した未曾有の大地震と津波、そして原子力発電所事故という複合的な災害により、多くの犠牲者と避難者を出した東日本大震災から丸4年が経過しました。

ここに、謹んで東日本大震災で犠牲になられた方々へお悔やみ申し上げますとともに、地震発生以降、職員の派遣や物資提供など、全国から多大なるご支援をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

今回の津波により、福島県沿岸は甚大な被害を受け、海岸堤防はそのほとんどが壊滅的に被災し、現在、鋭意復旧・復興に全力で取り組んでいるところです。

今回は、その復旧・復興状況について紹介します。



県総面積：13,782.76km² 県総人口：1,933,753人
平成27年2月1日現在 (県面積、人口)
いわき市面積：1,231.35km² いわき市人口：325,709人
平成27年3月1日現在 (市面積、人口)

図-1 いわき市位置図

2. いわき地域の概要

いわき地域は、いわき市1市からなり、福島県の東南部に位置し、東北地方と首都圏の接点にあり、いわき七浜と呼ばれる約67kmの海岸線で太平洋に面し、北は双葉郡、西は阿武隈高地を隔てて田村市、田村郡、石川郡、東白川郡と接しています。その面積約1,231km² (県の約9%)、人口約33万人 (県の約17%) であり、当地域全体が比較的温暖な気候を有しています。

いわき市は、環境水族館アクアマリンふくしまや塩屋崎灯台、豊かな自然を有する夏井川渓谷などの多くの観光地に恵まれ、たくさんの観光客が訪れています。

また、平成27年3月には常磐自動車道が全線開通となり、観光はもとより、震災復興の面からもその効果が期待されているところです。



アクアマリンふくしま



塩屋崎灯台



夏井川渓谷



勿来関跡

会員だより

3. 災害復旧の進捗状況

東日本大震災によって、いわき地域は、河川・砂防、道路・橋梁、下水道・公園、公営住宅等、福島県が管理するほとんどの公共土木施設で甚大な被害を受けました。

災害復旧工事の進捗は、いわき地方を含む沿岸部の浜通り地方で、これまで87%に着工し、57%を完了しています（平成27年2月現在）。

また、津波によって被災した海岸施設については83%に着工するなど、県民の安全安心な生活を少しでも早く取り戻すため、着実に復旧・復興を進めています。

4. 他県からの応援職員

復旧・復興工事の推進においては、マンパワー不足、入札不調、用地確保などの課題が山積しております。

福島県土木部においては、過去最大規模となった平成26年度の予算を適切に執行するため、他県等から多くの応援職員の方々の支援を受けております。

当事務所でも1都1府12県1公社から総勢26名の応援職員にきて頂いており、当県職員と応援職員が一丸となって、公共土木施設の早期復旧などに努めています。

応援職員の皆様には地震発生直後から災害査定に係る業務等を中心に支援を頂きました。

地震から間もないこともあり、住生活環境も十分整わない中で様々なご苦労があったかと思いますが、慣れない土地での被災箇所の測量業務や災

害査定に使用する説明資料づくり等に奮闘して頂きました。

また、災害査定業務に引き続き、災害復旧事業やその後の工事発注、施工現場の管理にも従事されており、加えて、技術的な業務の他にも、他官庁との協議や用地調整、近隣住民に対する説明会などでも、手腕を発揮頂いております。

土地勘もなく、また業務環境が異なるなど、多くのご苦労があることと思いますが、応援職員の皆様の業務に取り組む姿勢には、我々も見習うべき部分が多々あると感じています。

平成26年度4月の時点で、いわき管内の防潮堤等の復旧は、工事契約はしたもののまだ準備工の段階でした。

4月に着任された応援職員の方々は、着任当初から現場の様々な問題点を施工業者とともに乗り越えて頂き、ほぼ1年が経過した平成27年3月末時点では、いわき管内の沿岸部のほぼ全域で建設機械が躍動的に動いている状況になっています。

とはいえ、大震災からの復旧・復興の道のりはまだまだ残っています。



写真－1 いわき市久之浜地区の復旧・復興状況
(平成27年2月撮影)



写真－2 福岡県からの応援職員 力武さん



写真－3 高知県からの応援職員 清岡さん

会員だより



写真-4 栃木県からの応援職員 松本さん

業務量も膨大で、とても当県職員のみで乗り越えられるものではありません。

今後も応援職員の皆様のお力を頂きながら、一日も早く復旧・復興を成し遂げたいと考えております。

5. 夏井地区海岸堤防の紹介

いわき市の夏井地区海岸堤防は、日本で初めて、震災コンクリートガレキを活用し、ダムで開発された CSG 技術を海岸堤防へ応用して建設されました。

CSG (Cemented Sand and Gravel) とは、構造物建設サイト近傍で容易に入手できる岩石質材料に、セメント、水を添加し、簡易な練り混ぜにより製造される材料であり、台形 CSG ダムの堤体材料として開発された技術です。

被災した海岸堤防は、災害復旧事業で復旧しておりますが、夏井地区海岸は無堤区間であったため、社会資本整備交付金事業にて堤防を新設しました。

堤防の延長は920m、天端標高 (TP) は7.2m、堤体積 6 万 m^3 、うち 4 万 m^3 をいわき市で発生した震災コンクリートガレキにセメント・水を加えた CSG を用いて構築しました。

コンクリートガレキについては、ガレキ処理の主体であるいわき市に現場まで運搬して頂くこととで、廃棄物処理法の困難な法手続を解決し、材料費を大きくコスト削減することができました。

また、本工法の大きな特徴である汎用機械による急速施工によって、打設開始から7カ月で堤防が完成し、土堤の表面をブロック等で覆う従来方式の海岸堤防に比べ、堤防本体完成まで約4カ月の工期短縮が可能となりました。

この成果が認められ夏井地区海岸堤防事業は、当県初となる土木学会技術賞 (II グループ) を受賞いたしました。

土木学会賞技術賞 (II グループ) とは、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる画期的なプロジェクトに贈られるものです。

震災コンクリートガレキを活用し、日本で初めてダム技術である CSG を海岸堤防に適用した「先

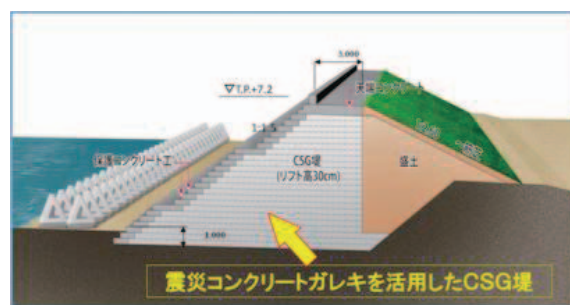


図-2 夏井地区海岸堤防 標準断面図



図-3 夏井地区海岸堤防 全体概要図

会員だより



写真-5 土木学会技術賞の表彰状と楯

進性」、景観や環境に配慮しながら工期短縮とコスト縮減を図った「合理性」、汎用機械による施工や技術資料の作成など他の事業への展開を可能にした「発展性」に富んだ事業であると評価され、技術賞に値するものとして認められました。

平成26年6月13日に土木学会賞表彰式が開催され、表彰を受けました。

夏井地区海岸の堤防工事は、平成25年10月に完



写真-6 完成した夏井地区海岸堤防



写真-7 高校生の現場見学状況

成しました。堤防完成後は、多くの方々に見学頂いており、工事中からの見学者を含めると、これまで約500人の方々に見学頂きました。堤防完成後は、高校生の授業などで見学頂くことが多くなっています。

これからも、福島復興のシンボルとなるよう積極的にPRしていきたいと思えます。

6. 結 び に

福島県土木部といたしましては、「一日でも早く県土の復旧・復興を成し遂げる」という復興ポリシーと「使命」、「挑戦」、「責任」、「誇り」という復興理念をもとに、職員一丸となって取り組んでおります。

引き続き、「夢・希望・笑顔に満ちた“新生ふくしま”」の実現に向け、全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

最後に、当県で発生した災害に関し、災害査定や事業を進めるうえで、ご指導、ご協力いただきました国土交通省や財務省の方々、また、支援を頂いております応援職員の方々に対し、この場をお借りしてお礼を申し上げます。



写真-8 応援職員の方々と福島復興を誓う

